

長久手市行政評価票 (A票：事業評価票)

事業番号	82	事業名	農楽校事業	担当部課	建設部みどりの推進課	
基本情報	第6次総合計画・基本目標	3 みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物			決算書ページ	—
	行政改革指針・重点課題	—			会計区分	一般会計
	法定受託事務の有無	無			予算区分(款-項-目)	
	その他(関係計画、要綱等)	有 長久手農楽校設置要綱			5-1-7 長久手田園バレー事業費	
	事業開始の背景、経緯等	長久手田園バレー事業の施策として、多様な担い手の育成を目指し、農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得するために開設された。				
市民・民間事業者との連携協働の可能性	市民とのみ協働可			(両者と協働不可の場合はその理由)		

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得することで、多様な担い手の育成を目指す。
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 農作業を体験したい市民、農業を勉強したい市民、農業を始めたい市民
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農場での実習、農業に関する講義を通して、希望する市民に農業知識、技術を習得してもらう。

コスト推移	項目	単位	区分	H28年度(2016)	H29年度(2017)	H30年度(2018)	R1年度(2019)	R2年度(2020)
	事業費(A)	千円	予算	1,946	1,946	1,961	1,967	1,971
			決算	1,736	1,771	1,868	2,042	
人件費(B)	千円	決算	1,146	2,819	1,452	1,394		
総コスト(C)=(A+B)	千円	決算	2,882	4,590	3,320	3,436		
事業対象の数(D) (R2年度は想定数)	人			33	28	41	44	40
対象あたりコスト(C/D)	千円			87	164	81	78	

成果推移	成果指標 (事業の意図を反映する指標)	単位	区分	H28年度(2016)	H29年度(2017)	H30年度(2018)	R1年度(2019)	R2年度(2020)
	修了生 (農業知識、技術を習得した市民)	人	目標	40	40	40	40	40
			実績	33	28	41	44	
(指標の設定根拠)				(数値目標の根拠)				
様々な「農」に関わる市民を増やし多様な農業の担い手を育成するため、修了生(農業知識、技術を習得した市民)を指標とする。				農楽校の活動敷地においてスムーズに活動できる最大人数としている。				
(前年までと変更した場合はその理由)								

これまでの振り返り	目標達成状況・分析コメント	(成果指標等の目標に対する達成状況・分析状況や進捗状況など) 近年応募人数が定員に達しない状況もあったが、受講生募集のチラシ配布等を行ったことで農楽校の周知に繋がりが、平成30年度以降は目標を達成した。
	活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 圃場での野菜栽培実習のほか、平成30年度からは東山地区での稲作にも農楽校事業で参画している。修了生のなかには、個人で農地を借りて野菜等を栽培し、あぐりん村やJAに出荷する人もいる。
	改善ポイント	(改善が必要なこと、改善の方法など) 開校から17年目を迎え、講師・コーチの高齢化、カリキュラムの硬直化が課題としてあげられる。

事業を構成する事務事業①	事務事業①	農楽校事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度(2019)	R2年度(2020)	R3年度(2021)	R4年度(2022)	R5年度(2023)	
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込	40	40	40	40	40	
			実績	44					
	(2) 【アクションプラン(総合計画)の指定の指標】		見込						
			実績						
	(3)		見込						
			実績						
	<備考:活動の概要(R1年度(2019))> ・農場(3,500㎡)実習50回・加工実習3回・販売実習1回・農業講義(座学)10回 ・保育園連携事業(芋掘り遠足) ・市民向け収穫体験・市民向け加工体験(味噌造り)各1回							今後の方向性	拡充

事業を構成する事務事業②	事務事業②								
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度(2019)	R2年度(2020)	R3年度(2021)	R4年度(2022)	R5年度(2023)	
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込						
			実績						
	(2) 【アクションプラン(総合計画)の指定の指標】		見込						
			実績						
	(3)		見込						
			実績						
	<備考:活動の概要(R1年度(2019))>							今後の方向性	

事業を構成する事務事業③	事務事業③								
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度(2019)	R2年度(2020)	R3年度(2021)	R4年度(2022)	R5年度(2023)	
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込						
			実績						
	(2) 【アクションプラン(総合計画)の指定の指標】		見込						
			実績						
	(3)		見込						
			実績						
	<備考:活動の概要(R1年度(2019))>							今後の方向性	

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 修了生の事業実施・運営への参画を促進するとともに、事業の運営体制を更新する。市民へ事業の周知を行い、ニーズの掘り起こしを図る。
	中長期の目標	(いっごころまでに事業をどのような状態にしたいか) 様々な「農」に関わる市民を増やし、多様な農業の担い手を育成するための学習機関として、多くの市民が参加する場とする。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・開校から年数が経過しているが、事業の性質上、受益者が限定されるため、「中長期の目標」に掲げる効果(農業に関わる市民が増えたか)の検証が難しい。事業の継続にあたり、農業に関心のある一定数のニーズに特化し、スポーツ教室等と同様に応分の受益者負担を求めるのか、農業の担い手不足を解消して市内の農地を守るためにニーズを掘り起こすのか、目的を再検討した上で、効果の高い事業となるよう見直しを進めてください。
内部意見への回答		